

2. 体育学研究科博士後期課程体育学専攻担当教員研究領域等一覧

【専任教員】

① 研究指導担当教員

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
研 究 指 導 担 当 教 員	小澤 雄二 (教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・身体教育特殊研究A ・身体教育特殊研究演習A	1) 尿中および血中成分の変動を指標とした武道のトレーニング特性の検討 2) 安全で効果的な武道の指導のための用具の研究・開発 3) 柔道の授業のための実践的指導プログラムの研究・開発 4) 柔道選手の競技力向上に関する研究 以上の4つの方向から主に研究を行っている。
	梶 ちか子 (教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・コブ特殊研究・実習 ・スポーツ教育学特殊研究 ・スポーツ教育学特殊研究演習	保健体育科教育学、舞踊教育学を専門分野とし、学校教育における体育・保健の授業づくりや学修成果・評価をテーマに、授業内容・学修過程・評価規準の設定の可視化を目的とした教材開発、授業改善に向けての授業実践等について、量的研究法と質的研究法を複合的に用いて研究を進めている。
	金 高 宏 文 (教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	スポーツ運動における「技能の習得」や「動作の改善」時に生じる「コツ・カン」や「フォーム」の変化について調査・測定している。現在は、各スポーツ種目における初心・初級者のコツや技術、その指導・トレーニング方法を探求している。専門はスポーツ運動学及びトレーニング学で、スポーツバイオメカニクスと指導者育成・再研修のカリキュラム論についても取り組んでいる。
	高 井 洋 平 (教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・トレーニング科学特殊研究 ・トレーニング科学特殊研究演習	発育期の子ども、高齢者およびスポーツ選手を対象に、身体組成、筋機能および運動能力におけるトレーナビリティに関する研究を、運動生理学およびバイオメカニクスの手法を用いて行っている。
	高 橋 仁 大 (教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	スポーツにおける戦略・戦術分析のためのゲームパフォーマンス分析ならびに Performance Analysis を行っている。特に映像を用いた分析ならびにフィードバック手法、またゲームパフォーマンス分析を基にしたゲームパフォーマンス評価に関する研究を進めている。これらの研究が実験室的研究で終わることなく、スポーツの実践場面に貢献できるような、フィールドでの実践的活動も重点的に行う。
	田 卷 弘 之 (教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・体力科学特殊研究 ・体力科学特殊研究演習	疲労及び筋持久力の改善に関する神経-筋系の制御機構や、運動刺激が筋・骨格系の組織細胞の形態や機能に及ぼす影響に関する領域をテーマとしている。また加齢や不動によって骨や骨格筋がどのように萎縮するのか、どのような運動・トレーニングで防止できるのか等について組織・細胞を各種顕微鏡で観察して解明しようとしている。
	中垣内 真樹 (教授)	・ヘルスサイエンス特殊研究 ・ヘルスサイエンス特殊研究演習	中高齢者を対象として健康づくり、介護予防のための運動の実践方法やその効果について研究している。地域での効果的な運動の普及を目指して運動プログラムを作成し、実際に地域等で実践指導をしてその効果を検証しながら運動の有用性や意義を明らかにする。
	永 原 隆 (教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	スポーツ科学を研究領域とし、競技力向上に有用となる知見を得るために研究を行っている。スプリント走学を専門とし、子供から高齢者、アスリートを対象として、スプリント走の機序、評価法、効果的なトレーニング手段の解明を進めている。また、研究に用いる器具やソフトウェアの開発を行っている。
	中 本 浩 揮 (教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・スポーツ心理学特殊研究 ・スポーツ心理学特殊研究演習	スポーツの熟達化をテーマとし、優れた競技者の視覚システムおよび予測能力と運動修正能力といった知覚・認知技能の特徴やその獲得方法について、心理物理学、生理心理学的手法を用いて研究を行っている。
沼 尾 成 晴 (教授)	・ヘルスサイエンス特殊研究 ・ヘルスサイエンス特殊研究演習	肥満や生活習慣病の危険因子を改善するための効果的な身体活動や運動方法の開発を目指し、呼吸や血液指標(生化学指標、アディポカイン)などを用いて、急性運動や慢性運動のエネルギー代謝(糖代謝、脂質代謝)に及ぼす影響について応用的な研究を進めている。また、中高齢者に対する運動や身体活動を増加させるための方法、またその効果についても検討している。	

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	廣津匡隆 (教授)	・スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究 ・スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究演習	整形外科的スポーツ傷害の発症予防と運動療法について、特に膝・足の下肢や肩・肘の上肢のスポーツ障害を中心に、その病態・予防法・治療法に関して研究を行う。各スポーツにおけるスポーツ傷害発症のメカニズムを解明し、メディカルチェックなどを通して個人の身体的特徴を評価することにより、障害予防のための最適なトレーニング法などについて研究を行う。
	藤井康成 (教授)	・スポーツ医科学特殊研究 ・スポーツ医科学特殊研究演習	スポーツ医科学における整形外科的疾患の予防と運動療法について、特に肩・肘の上肢、膝・足の下肢関節のスポーツ障害を中心に、その病態や治療法、予防法に関して研究を行う。スポーツ選手の身体機能を評価するメディカルチェックを通して、体の柔軟性やアライメントの評価法から障害予防のためのトレーニング法などについても研究をすすめる。
	藤田英二 (教授)	・運動処方論特殊研究 ・運動処方論特殊研究演習	アスレティックトレーナーの専門領域であるアスレティックトレーニング、および高齢者の健康づくりについて研究を行っている。アスレティックトレーニングでは、特にスポーツによる外傷および障害予防に関するフィジカルコンディショニングや、そのトレーニング法に関して取り組んでいる。高齢者の健康づくりでは、健常高齢者から低体力の虚弱者まで幅広い層を対象とした運動の手法とその効果について研究している。
	堀内雅弘 (教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・スポーツ生理学特殊研究 ・スポーツ生理学特殊研究演習	専門領域は運動生理学(呼吸・中心循環、および末梢循環応答)、および環境生理学である。具体的には、運動時の呼吸循環応答のメカニズムを明らかにしようとしている。この要因解明のために、環境要因(低酸素・暑熱等)を負荷した状況での実験研究を行っている。さらに、これら環境要因が脳循環応答に及ぼす影響と認知機能の関連についても検討している。
	前田明 (教授・副学長)	・スポーツバイオメカニクス特殊研究 ・スポーツバイオメカニクス特殊研究演習	運動技術の習得を力学的に得るためにモーションキャプチャシステム、ハイスピードカメラ、フォースプレート等を用いてバイオメカニクス的に動作を分析する。競技力向上に関するトレーニング効果をバイオメカニクスの見地から考察する。
	三浦健 (教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	スポーツにおける技術面、戦術面、試合の運営等に焦点を当て、実践活動に直接寄与する知見を、数値データや画像データを提示することにより、「実践事例研究論文」として作成する方法論を用いた研究を行っている。また、実践事例研究論文作成のための方法論を確立するために取り組んでいる。
	森司朗 (教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・スポーツ心理学特殊研究 ・スポーツ心理学特殊研究演習	1) 幼少年期の心身両面からの運動発達 2) 運動認知メカニズムや運動学習のプロセスなどの理論的な研究及びメンタルトレーニングや認知トレーニングへの応用 3) コミュニティ心理学的アプローチを通して自閉症児の治療教育などの実践的研究 4) 脳内神経連絡経路などの基礎研究 以上の4つの方向から主に研究を行っている。
	吉田剛一郎 (教授)	・スポーツ生化学特殊研究 ・スポーツ生化学特殊研究演習	運動負荷にともなう生体内代謝変化について検討を行っている。栄養素の異化によるエネルギー産生および疲労をテーマとし、その一つとして脂肪酸代謝のコファクターであるカルニチンの末梢および中枢におけるはたらきを検討している。
與谷謙吾 (教授)	・体力科学特殊研究 ・体力科学特殊研究演習	外部刺激に対する身体の反応パフォーマンスについて、時間的側面(反応時間)から中枢(神経系)や末梢(筋系)の時間要素に区分して評価し、各系でのトレーナビリティ等について研究を行っている。	

② 授業担当教員

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
授 業 担 当 教 員	竹中 健太郎 (教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	我国発祥の伝統運動文化である武道(剣道)において、その競技性と文化性の共存に向けたコーチングの探求、構築を目指す研究を推進している。競技力向上の要因、あるいは技術習得の効率性についての実践的な検証と並行し、剣術が現代の剣道に見られる運動形態に発展する過程で伝承されてきた精神性を追求する。競技の発展と伝統文化の継承の二軸の視点から、後世への伝承の方法論について検討している。
	中村 夏実 (教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	海洋スポーツ種目(特にボート、カヌー)における水上パフォーマンスの評価方法や総合的な競技力の評価体系の確立に取り組みながら、国際的な競漕力の獲得を目指すユニバ世代の体力的・技術的目標の設定と目標達成のためのトレーニング方法を探求している。一方で、海洋スポーツ全般の心身への健康増進効果のエビデンスの蓄積に取り組んでいる。
	和田 智仁 (教授)	・スポーツ情報学特殊研究 ・スポーツ情報学特殊研究演習	スポーツにおける情報通信技術の活用をテーマとし、慣性センサ等のウェアラブルセンサを用いた動作分析やデータの可視化、スポーツ現場におけるタブレット活用、映像のフィードバック手法などの研究に取り組んでいる。
	幾留 沙智 (准教授)	・スポーツ心理学特殊研究 ・スポーツ心理学特殊研究演習Ⅰ ・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ	パフォーマンス向上に関連する内容として、運動の素早い修正方略及び修正メカニズムの解明、練習の質を高める心理特性の解明に向けて実験法や質問紙調査法を用いて研究を行っている。またパフォーマンス発揮に関連する内容として、メンタルトレーニングの効果検証といった実践研究に取り組んでいる。
	石原 豊一 (准教授)	・ユース特殊研究・実習	サッカー選手や野球選手の巨額の契約での移籍が世間を賑わせています。アスリートはなぜ国際移動をするのか、私の研究テーマの興味はここにあります。ただし、とくに焦点を当てているのは、メジャーリーガーの大谷選手のような「ビッグディール」での移動ではない「普通の」アスリートの移動です。日本からの移動とは逆に、近年は途上国から日本への移動も様々なかたちで起こっています。そのような移動を研究していく中、国際開発とスポーツというテーマにも遭遇しました。
	小崎 亮輔 (准教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ	柔道に関連した研究を実施している。これまでに実施してきた研究のテーマは以下のとおりである。 1. 障害児を対象とした発達支援活動である「柔道療育」の効果の検証 2. 柔道における段階的かつ細分化された指導方法の検討及び開発 3. 柔道高段者及び中高齢実践者の健康状態に関する研究 4. 柔道競技における競技映像分析ツールを用いたパフォーマンス評価
	隅野 美砂輝 (准教授)	・スポーツ経営学特殊研究 ・スポーツ経営学特殊研究演習 ・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ	主にプロスポーツに関するスポーツ経営学やスポーツマーケティングについて研究している。その中でもスポーツファンを対象に消費者行動研究の手法を援用し、その行動の解明に取り組んでいる。
	藤井 雅文 (准教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	野球における以下の3つの項目についての評価方法、ならびに効果的なトレーニング方法およびコーチング方法について、実際の指導現場をフィールドにして研究を進めている。 1) 走攻守のパフォーマンスについて 2) 攻撃戦術および守備戦術について 3) 選手が向上するためのチーム(環境)作りについて

【非常勤講師】

③ 授業のみを担当する教員

区分	氏名（職名）	担当授業科目
授業のみを担当する教員	川西正志 （非常勤講師）	・スポーツ社会学特殊研究 ・スポーツ社会学特殊研究演習
	真田久 （非常勤講師）	・スポーツ人文学特殊研究 ・スポーツ人文学特殊研究演習
	鈴木志保子 （非常勤講師）	・スポーツ栄養学特殊研究 ・スポーツ栄養学特殊研究演習
	関朋昭 （非常勤講師）	・スポーツ経営学特殊研究 ・スポーツ経営学特殊研究演習
	山田理恵 （非常勤講師）	・スポーツ人文学特殊研究 ・スポーツ人文学特殊研究演習

【連携大学院（JISS）】

① 研究指導担当教員

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	星川雅子 （客員教授）	・アスリート・トレーニング科学特殊研究 ・アスリート・トレーニング科学特殊研究演習	アスリートが高い競技パフォーマンスを発揮するために必要となる有酸素性および無酸素性の運動能力、およびコンディショニングに関する研究を行っている。コンディショニングは、特に生体リズムとリカバリーに関する内容を中心に研究を行っており、海外遠征時や早朝・夜間に高い競技パフォーマンスを発揮するための生体リズム操作などが含まれる。
	山下大地 （客員准教授）	・アスリート・トレーニング科学特殊研究 ・アスリート・トレーニング科学特殊研究演習	スポーツバイオメカニクスとストレングス&コンディショニングを専門とし、アスリートのパフォーマンス向上のための研究を行っている。ジャンプなどの基本的なスポーツ動作から、タックルなどの競技特異的な動作まで、さまざまな動作のパフォーマンスを評価し、それらを向上させるトレーニング方法について検討している

② 授業担当教員

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	横澤俊治 （客員准教授）	・アスリート・トレーニング科学特殊研究 ・アスリート・トレーニング科学特殊研究演習	スポーツバイオメカニクス、特に動作解析やスピード分析にもとづくパフォーマンス評価法について研究している。また、スピードスケート、陸上競技、ボート、トライアスロンなどにおける世界一流選手の動作の特徴や日本選手の課題について検討している。

【連携大学院】

① 研究指導担当教員

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	池田孝博 (客員教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ	スポーツ統計学・体育測定評価学の観点から、以下のようなテーマについて研究を行っている。 1) 幼児の体力・運動能力、身体活動とその関連要因に関する研究 2) 小学生の運動・身体活動に対する意識に関する研究（日韓比較研究） 3) 剣道のスポーツサーフェイス（床面）に関する研究
	井福裕俊 (客員教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・身体教育特殊研究 A ・身体教育特殊研究演習 A	生理学・運動生理学の観点から、1) 運動や自律神経刺激に対する心臓・循環システムの調節メカニズムの解明、2) 運動や自律神経刺激に対するアスリートの循環応答パターンの特徴、および3) 運動トレーニングに対する生体適応現象の解明を主として行っている。

② 授業担当教員

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	坂本将基 (客員教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・身体教育特殊研究 A ・身体教育特殊研究演習 A	これまで、ヒトが運動のイメージを行っているときの脳活動について、神経生理学的な手法を用いて調べてきた。現在は、主観的な身体の状態と客観的なそれとの間で誤差が生じる現象に着目し、この現象とアスリートの競技特性との関わりについて検討している。
	塩瀬圭佑 (客員准教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・身体教育特殊研究 B ・身体教育特殊研究演習 B	健康や競技パフォーマンスに及ぼす運動と食事の影響について、特に下記のテーマで研究を行っている。1) 競技力向上のための糖質摂取・貯蔵に関する研究、2) 生体電気インピーダンス法による身体組成評価の研究、3) 子どもの生活習慣と健康についての研究